平成27年度発達障害に関する教員の専門性向上事業　別紙様式２

安芸太田町立戸河内中学校の取組

研究テーマ
学ぶ楽しさを実感し，自ら学び続ける生徒の育成
～「協調学習」を引き起こす授業づくりを通して～

授業実践①（プラン）

◆第（１）学年（社会）科　単元名「　古代国家の形成　」
◆本時の目標
5～6世紀に，王を中心とした集団が生まれ，支配を広げていったことを証明しよう！

◆生徒の状況と，それをふまえた指導・支援のポイント

学級全体の状況
◎授業に意欲的に取り組む。
◎協力して話し合うことができる。
△学力差が大きい。
（知識量や関心の度合い）
△落ち着いて聞くことに課題がある。

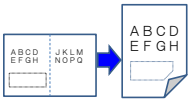
特別な支援が必要な生徒の状況
◎関心が高く，発表にも積極的。
◎歴史に関する知識が豊富。
△プリント類の整理整頓が難しい。
△字が乱雑になり，漢字を使わない。
△視機能に困難さを抱えている。

指導・支援のポイント
○ワークシートの工夫
○協調学習（話し合い中心の学習活動）の手法の採用

授業実践②実践の具体

ワークシート・資料プリントの工夫

・フォントの規則性
・横置き袋とじから縦置き両面に変更
　→大判化（読みやすさ，書きやすさ）
・改行位置の工夫
・自分の成長を実感できる工夫

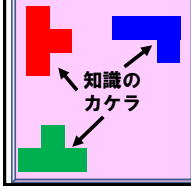


※プリント配布後は，まず「折ること」を指示

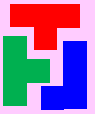
授業実践②実践の具体

全ての生徒を学びの主人公に！
～知識構成型ジグソー法～

エキスパート活動
課題を解くための知識の一部分についての「専門家」になる。



ジグソー活動
それぞれ得た知識を持ち寄り，組み合わせることで，課題に迫る。

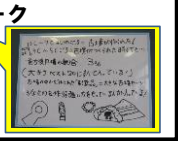


クロストーク
発表しあい，理解を深める。

授業実践②実践の具体

全ての生徒を学びの主人公に！
～知識構成型ジグソー法～

課題把握 → エキスパート活動 → ジグソー活動 → クロストーク → まとめ



授業実践③成果・課題

成果
◎全員が複数の資料を関連づけて記述。
◎多様な活動で意欲と集中力が持続。
◎要支援生徒→「読む」，「書く」がスムーズに。
◎事前事後の比較で授業後に学習の成果を実感。

課題
△3つの資料すべての内容を関連づけて記述できた生徒→18名中5名。
△「答え」を書くべき欄に「ふりかえり」を書いた生徒。

授業実践④今後の改善点

○何をすればよいか，どこを見るか，どこに書くかなどの指示の工夫
- ・口頭で→全体説明と個別説明の連動
- ・文字で→ワークシートと板書のリンク
- ・合言葉を使った簡便な指示

○余計な負荷が少ないワークシートづくりの継続

○実態をふまえた資料づくり

普及・啓発①拠点教諭の取組

町内の小学校を会場に研修会を開催

- ・とき　平成27年12月3日（木）
- ・ところ　安芸太田町立加計小学校
- ・学年　4年生
- ・教科　算数（小数の計算）

普及・啓発②拠点教諭の取組

町内の小学校を会場に研修会を開催

- ・授業のUD化について（研究授業）
- ・各校特別支援教育コーディネーターが参加
- ・拠点教諭が，研修のまとめ部分になる「講話」を担当

普及・啓発③拠点校の取組

授業公開（研究授業）

拠点教諭の授業を町内の小中学校に公開し，授業後の研修会に参加を得て，具体的な支援のありかたや方法等について研修。（研修成果還元の場）

今年度の成果・課題

	成　果	課　題
授業実践	授業のUD化の具体について，公開授業を通して紹介できた。	公開授業で紹介したUD化の手法が学校全体のものになりきれていない。
普及啓発	町内小学校を会場に研修会を開催し，「視覚支援」・「明確な指示」などについて助言できた。また，「ICTの活用」について紹介した。	普及・啓発の機会が1回の研修会開催にとどまった。定期的（日常的）な情報提供や研修成果還元のありかたを検討する必要がある。

次年度への展望

	取組の重点
授業実践	○主体的な学びを創造するために… ・明確で意欲がもてるような学習目標を設定。 ・教室環境の再点検・整備。 ・授業の流れや取り組む課題が分かるようなワークシートの再構成。
普及・啓発	○校内研修等を通して研修成果を発信。 ○各校に特別支援通信を配布。 ○他校の校内研修（研究授業）で助言。